大麦特報（第３号）

令　和　３　年　２　月
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

今年は積雪が多かったため、排水溝が崩れたり水が停滞しているほ場がみられます。ほ場の状態を確認し、排水溝を手直しするなど排水対策を徹底しましょう。
分施体系で栽培している場合は、生育の回復と穂数の確保のため、遅れずに追肥を行いましょう。

1. 排水溝の点検・手直し

水が停滞しているほ場では、湿害により根の伸長が阻害され、生育不良につながります。ほ場内の停滞水を排除するため、**排水溝の点検・手直し**を行うとともに、**排水口は深く掘り下げ、確実に溝と連結**しましょう。

2. 消雪後の追肥（分施体系のみ）

大麦の生育を回復させ、適正な茎数・穂数を確保するため、適切に追肥を施用しましょう。

時　期　**２月下旬～３月上旬（消雪後、速やかに）**

施用量　**硫　安　20kg/10a**

※茎数が多く、条間の土が見えないくらい繁茂しているようなほ場では、施用量を減らしましょう。

※肥効調節型肥料（LP大麦48号）を施用したほ場では、原則として追肥の必要はありません。
（ただし、極端に葉色が淡い場合は農協や農林振興センターにご相談ください。）